

「自然災害伝承碑の地図化を通じた災害教訓周知・普及」の取組

自然災害伝承碑の教訓伝承の重要性

西日本豪雨災害から学ぶ

広島県坂町小屋浦地区には、明治40年（1907）に土砂災害があった旨の石碑が設置されています。しかし、平成30年（2018）西日本豪雨災害では**過去の教訓が生かされず**、小屋浦地区では、避難勧告が出されて2時間後までの避難率はわずか1.9%しかありませんでした。



大阪府警察提供

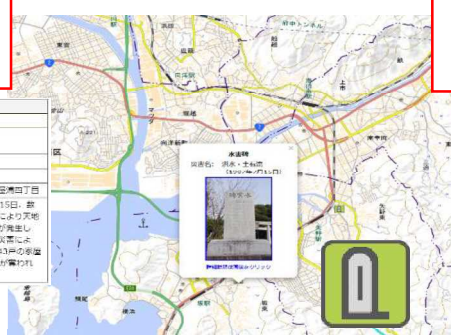
取組目的

国土地理院では、2019年度から災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、過去の自然災害に関する石碑やモニュメントなど「自然災害伝承碑」を地形図等に掲載していきます。これにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えするとともに、**教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減**を目指します。

Web「地理院地図」における表示イメージ

2019年6月
19日から順次提供開始

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月18日)
災害種別	洪水・土石流災害
建立年	1911
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦地区 明治40年(1907)7月18日、豊田川や坂田川で土石流が発生した。この災害時の状況に基づき、小屋浦地区では毎年避難訓練が行われ、44名の命が奪われた。
伝承内容	



2万5千分1地形図における表示イメージ

2019年9月
から順次提供予定



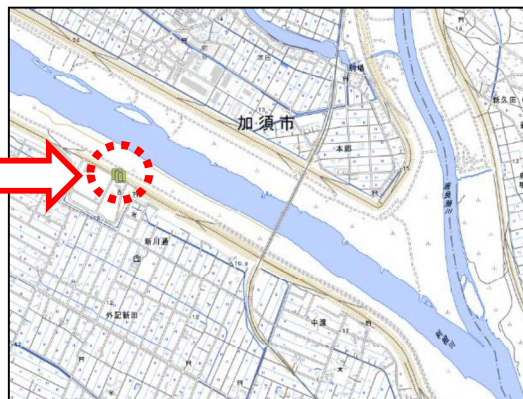
「自然災害伝承碑」とは？

- ◆ 過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。
- ◆ これら自然災害伝承碑は、当時の被災状況を伝えると同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待されます。



自然災害伝承碑

(堤防決壊跡碑：埼玉県加須市)



※画像はイメージです。

今後は、新たに制定した地図記号「自然災害伝承碑」を地図に掲載し、かつて自然災害が発生した地域であることを示します。

自然災害伝承碑の「表示イメージ」と「活用イメージ」

表示イメージ

国土院では、2019年6月19日からWeb「地理院地図」において、全国各地に建立されている自然災害伝承碑に関する情報（位置や伝承内容など）の公開を開始しました。

アイコン をクリックすると碑名や災害名が表示

さらに写真をクリックすると伝承内容や拡大写真が表示

新たに追加

自然災害伝承碑を示すアイコン

概要	
碑名	大津浪記念碑 (津波石碑)
災害名	明治三陸地震 (1896年6月15日) 昭和三陸地震 (1933年3月3日)
災害種別	地震・津波
建立年	不明 (1934年?)
所在地	岩手県宮古市重茂陣吉
伝承内容	「高千穂は1896年の和歌山、想へ津波の大津浪、此処より下に家を建てるな」重茂陣吉地区の生存者は明治三陸地震(1896)2人、昭和三陸地震(1933)4人、2度とも集落は全滅した。碑の教訓を守り、東日本大震災では家屋に被害はなかった。
ID	03202-003

活用イメージ

学校における学習教材



身近な災害履歴を学ぶための学習教材として、小中学校で活用いただく。

地理教育や防災教育への貢献

地域探訪の目標物



歩こう会などの探訪コースを設定する際の目標物とすることで、参加者が地域を歩きながら自然と過去の災害情報に触れる機会を創出する。

防災に対する関心を高めるきっかけ

防災地図の素材



自然災害伝承碑の情報などを素材とした防災地図を、児童生徒が現地調査を交えながら作成する。

児童生徒やそのまわりの大人の防災意識向上

自然災害伝承碑

※自然災害伝承碑とは、過去に起きた自然災害の規模や被害の情報を伝える石碑やモニュメントです。
※表示している情報は令和元年10月3日時点で収集できた情報です。
※海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成したものです。

